

総合的な学習

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00058156

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



総合的な学習

1. 伝統文化教育を進めるに当たって

別紙グラウンドデザインにもあるように、本校では、総合的な学習の時間で、大きく分けて三つの活動を行う。一つは情報活用力の基礎的・基本的知識と技能を身に付けること、一つは職業に関する学習、そして最後の一つは、地元金沢に関する現状の学習と未来への提言である。この中で、金沢に関する現状の学習と未来への提言は、まさに伝統文化教育に関わる活動である。金沢は古い歴史と伝統をもつ地域であり、例えば金箔や加賀友禅などの伝統工芸、能などの伝統芸能が今も受け継がれている。また、町並みとしては、金沢城を中心として、武家屋敷の跡が残っていたり、寺町と呼ばれる地域には、数多くの寺が今も残っている。さらに、古いものばかりでなく、北陸新幹線が開業したことに伴い、多くの観光客が訪れ、外国人にも配慮したまちづくりが進んだり、21世紀美術館などの建造により、新しい文化を創造していく土壌ができつつある。

この金沢という地域に住む生徒にとって、金沢の現状を知り、地域の未来を提言する活動はまさに伝統文化教育に通じる活動であるといえる。この活動は、総合的な学習が導入された当初から、本校で継続的に実施しており、およそ20年間の生徒のレポートや教員の指導のノウハウの蓄積があり、様々な教科等においても、この活動につながるカリキュラムが構築されている。こういったことを踏まえ、総合的な学習の時間においても、様々な教科等と連携を図りながら、伝統文化教育をすすめていきたい。

2. 能力・態度の育成に当たって

(1) 学校全体として育成する資質・能力について

先述の「金沢の現状を知り、地域の未来を提言する活動」では、①日本の伝統や文化に関する理解、②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度、③文化の伝承・創造への主体性など、の三つの資質・能力の育成すべてに関わることができると考える。本校では主に3年生でこの活動を行っていたが、伝統文化教育を進めるにあたって、平成29年度から、2年生でもその一部を行うことにした。

具体的には、2年生で、金沢に関する調べ活動を行い、主に「①日本の伝統や文化に関する理解」の育成を行う。3年生ではその知識を活用して、金沢の未来を提言する活動を行い、主に「③文化の伝承・創造への主体性」の育成を行う。このように、学年の発達段階に応じて育成の中心とする資質・能力を設定することで、さらに活動のねらいが絞りやすくなったと考えている。

(2) 関連・連携を図った教科等について

様々な教科等から、総合的な学習の時間につながる実践が報告されている。例えば社会科の「身近な地域」、家庭科の「郷土料理」、数学科の「旗源平の様々な確率」など、内容に関する学習があげられる。今年度は2年生で「金沢を紹介するパンフレット」製作を行ったが、各教科等の学習内容が、パンフレットの内容にも反映されていた。また、今年度は、各教科等が資質・能力の育成に力を入れていることから、例えば2年生の総合学習では「①日本の伝統や文化に関する理解」の育成を目標に挙げているが、生徒は、今の金沢の現状や課題を鋭い視点で分析するところまで、学習を深めていた。これは、「③文化の伝承・創造への主体性」の育成につながることであり、各教科等が、資質・能力を意識して実践を行った成果であると考えている。